

博士論文要旨

看護学専攻	学籍番号 206104 氏 名 増田 政江
論文題目	重症心身障害児（者）の施設入所に関する母親の心理的プロセスの探索
<p data-bbox="272 638 416 667"><研究目的></p> <p data-bbox="272 674 1305 770">本研究の目的は、施設入所している重症心身障害児（者）（以下、重症児（者））の母親が、わが子の施設入所を考え始めてから入所中の現在に至るまでの間の心理的プロセスを明らかにし、重症児（者）の母親への心理的支援の示唆を得ることである。</p> <p data-bbox="272 777 368 806"><方法></p> <p data-bbox="272 813 1305 1050">本研究の対象者は、契約により重症心身障害児施設に入所している重症児（者）の母親である。便宜的サンプリングで協力の得られた3つの重症心身障害児施設に子どもが入所している母親を紹介してもらうとともに、スノーボールサンプリング法にて対象者を募った。研究協力が得られた母親26名に、半構造化インタビューを行った。インタビューしたデータは、逐語録におこし、コービンとストラウスによるグラウンデッド・セオリー・アプローチを参考に分析を行った。分析は、カテゴリー間でどの様にお互いにつながり合っているかを出来るだけ詳細に述べるために、カテゴリーがどの様なものを説明する特性という観点で行った。</p> <p data-bbox="272 1057 443 1086"><倫理的配慮></p> <p data-bbox="272 1093 1002 1122">本研究は本学と研究協力施設の倫理審査委員会の承認後実施した。</p> <p data-bbox="272 1128 368 1158"><結果></p> <p data-bbox="272 1164 1305 1261">本研究の対象者は、30から70歳代で平均（±標準偏差）62.2（±11.7）歳で、関東圏内4つの都道府県に居住していた。入所している子どもの年齢は平均31.0（±12.0）歳で、8つの重症心身障害児施設に入所し、入所年数は、平均15.5（±15.3）年であった。</p> <p data-bbox="272 1267 1305 1330">研究参加者23名の分析終了時点で新たなカテゴリーが生成されない状態となり、その後3名を分析し確認し理論的飽和に達したと判断した。</p> <p data-bbox="272 1337 1305 1644">分析の結果、19のサブカテゴリーと11のカテゴリーとコアカテゴリーに統合された。11のカテゴリーの内訳は、【絶望感に苛まれながらもこの子に全力で向き合う】、【わが子を守る母親としての責任】、【わが子を守れない不安】、【わが子を施設に託すかどうかを考える】、【施設のことは考えてもいなかった】、【わが子を施設に託さざるを得なかった】、【わが子を施設に託すことに葛藤する】、【わが子を施設に託したことに苦悩する】、【わが子を任せられるか施設を見極める】、【施設との立ち位置を見出す】、【施設に託してもこの子を残して逝けない】である。また、母親の心理的プロセスには、特性として施設に託すことの葛藤や苦悩が存在していた。11のカテゴリーから《わが子を守る母親としての責任はかわらない》というコアカテゴリーが生成された。</p> <p data-bbox="272 1650 368 1680"><考察></p> <p data-bbox="272 1686 1305 1890">母親は、施設入所前から入所中の現在までの間、わが子を守る母親としての責任やわが子を守れない不安、施設に託すことの葛藤や苦悩の中にあった。その様な母親への心理的支援としては、母親が現在プロセスの中のどの様な心理状況であるのか理解しながら母親の思いに耳を傾け、ありのまま受け止めることが重要であると考ええる。本研究により明らかとなった母親の心理的プロセスに関する知見は、在宅や施設で働く看護師等医療福祉専門職者が母親を理解し支援することに役立つ可能性がある。</p>	